

20120421 現代政治戦略研究会議事録

「若手地方議員の仕事 ～地方議会の課題を考える～」

日 時：2012年4月21日（土）15:00-17:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

発表者：河井しほ氏（中央区議会議員） <http://ameblo.jp/kawaish/>

鈴木あやこ氏（江東区議会議員） <http://www.suzukiayako.com/>

清家あい氏（港区議会議員） <http://www.seikeai.jp/index.html>

参加者：参加者 21人（発表者除く）

（財務コンサルタント、銀行員、会社経営者、弁護士、中小企業診断士、会社員、ライター、地域活性コンサルタント、地方議員、公務員、大学院生、大学生、NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）

サマリー：

都心の再開発に伴う新規流入者（新住民）の激増により公共インフラの整備がおいつかないこと、待機児童対策など出産、子育て分野の行政サービスがおいついていないこと、そして、新住民の意思が議会や役所に反映されないこと（議員は元々の住民の代弁者が多い）など、中央区、江東区、港区における共通的な課題を見せることができました。

そして、これらの課題を解決するために、河井さん、鈴木さん、清家さんが政治家になっていったことを見せることができました（これだけが動機のすべてではないですが）。

合わせて、議員同士の議論の不足や、情報公開の不足など地方議会の課題も見せることができました。このことは、本来住民の生活に密着しているべき地方議会が住民とかい離してしまうことの一因となってしまいます。

感想としては、東京の区議会といっても、町内会や商店街、地主、名士などのおじさんたちには、出産、子育ては課題としてピンと来ないのだろうということも推測できます。しかもそれが、「新住民」など元々の住民と交流、コミュニケーションのない人々の課題であれば、なおさらであろうと。

なお、今後の政治研の展開として考えたのは、23区の中で同じ課題を持っている区の出産、子育て分野の行政サービスなどについて比較し、アーカイブ化したいということです。

会長から開会挨拶、戦略研・政治研の趣旨、今回ミーティングの趣旨
※古村会長より。若手地方議員サポートPJの説明が行われました。

1. 発表「各議員から自己紹介と目的などにつき」

1-1. 河井しほ氏

議員に当選するまでは、証券会社や金融機関に勤めていました。
また、2006年に長男を出産しました。

2011年、統一地方選にて中央区議会議員に初当選しました。
生まれは福岡県です。中央区においては「新住民」（新規流入者）となります。
中央区は「新住民」が比較的多いのでこれを「売り」にしています。

議員になった動機は「新住民」の意見を反映する仕組みを作るべきではないかと考えたからです。

中央区はこの10年で人口が24.8%増えました（新規流入）。
しかし、「新住民」の意見が反映する仕組みにはなっていません。

たとえば、勝どき地区ですが、元々の住民と「新住民」とのギャップがあります。
お祭りにて、「新住民」はお神輿を担ぐことができません。また、地区の会合でも発言権がない状況です。

住環境政策への住民意思の反映のため、議員になるべきではないかと考えました。

中央区議会は定数30人です。
オール区長派、オール与党（共産党などを除く）となっており、議会は迫認機関となってしまっています。
中央区長は7期目となっています。

議員になりまして、中央区予算の修正動議を出しました。
不備があったため、通ることはありませんでしたが、議会を少しでも動かしたのではないかと考えています。

議会の目指す姿としては、まず議員の活動を広報することが必要と考えています。

また、議会で会派同士対立することでもないと考えています。

ついで議員の役割は口利きではなく、区长、区役所が行うことを正しい方向に導くことではないかと考えています。

私の議員活動の課題は広報です。区民の方に十分に情報提供できていないのが現状です。

1-2. 鈴木あやこ氏

議員に当選するまでは、大手通信会社で法人営業をしていました。
江東区の豊洲に住んで13年、結婚して10年になります。

2011年、統一地方選にて江東区議会議員に初当選しました。
江東区議会は30代の女性議員が1人しかいません。

議員になった動機ですが。

江東区には子育て世代の流入が近年続いています。

しかし、子育て政策、待機児童対策が十分にとられておらず保育園に入れたくても入れない状況です。

このため、私も出産のタイミングを逃しました。女性の仕事と出産、子育ての両立を痛感しました。

豊洲は工場・倉庫地域から住宅地域に変貌した新しい街です。

しかし、昔からの住民が街づくりの方向を決めています。

それではと、街づくりの意見交換会に参加しました。

このことで、街づくりに興味を沸き、早稲田大学公共政策大学院へ入りました。

そして、退社せずに選挙へ出馬することを決めました。その際に会社の議員休職制度を使いました。

ですので、籍だけは会社に残っています。

江東区議会の議員ですがビジネスパーソンを経験した人が少ないです。

商店街、特定の団体の関係者が議員の多くを占めています。

このようなビジネスパーソンから挑戦する人が少ない状況を変えていきたいと考えています。

主な政策としては、ワークライフバランスとしています。

また、ICTを活用することにも重点を置いています。

1-3. 清家あい氏

港区東麻布の育ちです。

産経新聞の記者をしていましたが、結婚後、出産に伴って退社しました。

24時間を子育てに充てる状況でした。

他のママのお話を聞いて、自分だけの問題ではなく、みんなの問題ということに気がきました。

港区では芝浦アイランドの開発により、この地域の人口が2倍に増加しました。

このため、待機児童も大幅に増加し、問題となっています。

この問題をなんとかしたいと、港区ママの会を立ち上げました。

港区ママの会の意見を役所に提出しましたが、

港区役所の情報が届かない状況です。

また、港区役所の仕事を監視している人もいない状況です。

もしアメリカだったら地域情報をネットで流しています。

そこで、港区役所の情報公開が必要と考えました。

そのために港区議会議員に立候補し、2011年の統一地方選で当選しました。

また、地方からの改革が必要と考えています。

生活に密着しているのは地方議会だからです。生活の問題を中央集権では解決することができないからです。

しかし、地方政府は首長に権限が集中し、地方議会に力がないのが現状です。

2. パネル・ディスカッション「中心に据える政策について。現状と課題」

2-1. 河井氏

中心に据える政策は、街づくり政策です。人口はインフラ整備をしてから増やすべきではないかと考えています。

たとえば、勝どき駅も人口が急速に増えたためにホームのキャパシティが追い付かず危険な状況です。

これに対して、要望を出しています。

また、街づくりについては、国、都、区それぞれにアプローチしておく必要があります。

古村会長より質問

「政策実現のため議員が頑張るべきか？ 誰が主体となるべきか？」

河井氏より回答

「街づくり政策の場合、中央区主催の説明会には町内会のおじいさんやおばあさんしかいらっしゃいません。

ですので、お勤めに出ている方の声は反映されません。

お勤めに出ている方の代弁者として議員が大きな声で言うことと、継続的に言うことが必要です。

このためにお勤めに出ている方との交流の機会を増やすことが必要と考えています。」

2-2. 鈴木氏

中心に据える政策は、子育て政策です。江東区では人口増加は毎年1万人ずつのペースで行われています。

この人口増にインフラが追い付いていないのが現状です。

ワークライフバランスとして、子どもを預けられるかどうかということが大切です。

しかし、認可保育園、認証保育園が呼び水になって、さらに人口が増えることにもなっています。

人口動態を予測しつつ、インフラのキャパシティを増やす政策が必要です。

このための情報公開も必要です。

この政策に関しては、江東区の担当課長さんもまじえてワークショップを行いました。子育て支援のポータルサイトを立ち上げて欲しいと要望し、たまたま予算あったので、立ち上げることができました。

子育てと街づくりの観点から幅広く政策立案していきたいと考えています。

また、ICT活用による住民サービスの向上も目指しています。行政のホームページですが、検索しづらいです。双方向性も不足しています。

議員や役所にてICT活用への認識は遅れています。しつこく言い続けることが大切と考えています。

合わせて、議員活動の見える化を進めていきたいと考えています。住民は、区議会議員、都議会議員、国会議員がそれぞれどのような仕事をしているかわからない状況です。駅頭演説してもこの点はわからないのではないのでしょうか？

Twitter や Facebook を使って情報発信をしています。また、毎月、区政報告会を開催し、ここでのフィードバックを議会活動へ反映させています。

古村会長より質問

「情報公開について。行政によろしくといっても行政は変わるのでしょうか？
外からプレッシャーをかけるか、リーダーシップが必要になるのでしょうか？」

鈴木氏より回答

「江東区長はICT活用にあまり積極的ではないようです。」

2-3. 清家氏

中心に据える政策は、乳幼児対策と育児支援政策です。これは、女性の就職支援政策でもあります。

日本はこういった政策の先進国に比べて10年は遅れています。
港区はお金がある自治体なのにです。
待機児童の問題など10年前から言われているのに何も変わっていません。
私立幼稚園の既得利権に阻まれているのが現状です。

人員と予算を集中投下すべきだが区長の判断は行われていません。
この待機児童の問題は、いずれ学童の問題となるはずです。

人口減少社会において現役世代が働くためには、子育て、介護の支援こそ必要のはずです。

自身の BLOG を新聞の報道のように活用したいと考えています。
しかし、なかなか手が回らないのが課題です。

2-4. 参加者から質問

①結婚、出産していなかったら立候補したかどうか？

河井氏。立候補していた。

鈴木氏。わからない。

清家氏。新聞記者を続けていたら立候補しなかったかも。

②地方政府におけるICT活用のコミュニケーション（デジタルデバイドのことが念頭か）
は、日本のためになるか？

河井氏。ICTの意見がすべてではないことを前提にしている。

鈴木氏。日本のためになります。ネットからリアルへのつながりがすそ野を広げること
になります。

清家氏。日本を変える可能性があると思います。

3. 議員と参加者とのグループディスカッション

ヒアリングシート

「若手地方議員の政策実現と議会活動について、あるべき姿と現時点の状況、
そして、ギャップを埋めるために誰が何を行ったら良いか
～他人を変える、他人が変わるのではなく、自分が変わる、自分が変える～」
を使い、
参加者が議員にヒアリングする形式でグループディスカッションを行った。

議員ごと3グループに分かれた。

ヒアリングの内容は、

- 1) ○○議員にとっての「○○政策」の実現における地方議会のあるべき姿
 - 2) ○○議会の現時点の状況（○○議員の議会活動の課題）
 - 3) あるべき姿と現時点の状況とのギャップ
 - 4) ギャップを埋めるために誰が何を行ったら良いか？
 - ① ○○議員が具体的にすべきこと（次の（2015年）地方議会選挙までにすべきことを3点）
 - ② あなたがサポーターとして具体的にできること（あなたの「強み」を活かす）
- でした。

3-1. 河井氏グループ

- 1) ○○議員にとっての「○○政策」の実現における地方議会のあるべき姿
 - ・パフォーマンスではなく議論をしましょう
- 2) ○○議会の現時点の状況（○○議員の議会活動の課題）
 - ・議会において議論ができていない
 - ・「新住民」。10年以内の新規流入者が6割となるが、この方々の意見が反映されていない
 - ・予算の分配がうまくいっていない
- 3) あるべき姿と現時点の状況とのギャップ
(なし)
- 4) ギャップを埋めるために誰が何を行ったら良いか？
 - ① ○○議員が具体的にすべきこと（次の（2015年）地方議会選挙までにすべきことを3点）
 - ・とにかく再選する。多選することにより影響力は高まる
 - ・元々の住民の集まりである町内会へも顔を売っていく

- ・役所の担当責任者とも仲良くしていく
- ② あなたがサポーターとして具体的にできること（あなたの「強み」を活かす）
（なし）

3-2. 鈴木氏グループ

1) ○○議員にとっての「○○政策」の実現における地方議会のあるべき姿

- ・ICTを活用して住民ニーズを収集し、議会における議論に反映させたい

2) ○○議会の現時点の状況（○○議員の議会活動の課題）

- ・議会の定数43のうち、鈴木氏所属の会派は7人。また、野党扱いになっている
- ・請願・陳情もどの会派が背後にいるかで行政の扱いが変わる
- ・一般質問。各議員、年に1回。会派に関係なし

質問15分、回答15分。告知を1週間前に行う。このあと行政からのヒアリングがある

再質問は行わない

10時に始まり17時には終わる。延長しない

ただし、時間は短いかも知れないが、内容次第と考えている

レベルの低い質問を長い時間かけても仕方がない

- ・予算委員会での質問には時間制限はない
- ・一般質問や予算委員会での質問は慣習で上記のようにになっている。疑問に思う議員はいない

23区の議会はどこも、時間の制限が厳しいようです

・本会議はケーブルTVで公開されている。また、昨年からはインターネットで議事録の開示が始まる

委員会は傍聴のみ

- ・一般質問の作り方。問題意識が基本になる。また、議会で疑問に思ったことを貯めていく

合わせて、先進事例につき視察を行う

区政報告会にて意見を収集し、これを議会にフィードバックする

- ・行政から変わるの難しい。震災後、議員からの要望に応じてくることも増えたが例外を作りたくない
- ・行政はTwitter、Facebookがわからない（年齢期に）
- ・行政は情報公開をすると仕事が増えると考えている。実際にはそんなことはない
- ・ICT活用などの先進事例の視察を行っている。鈴木氏はこの引率係

3) あるべき姿と現時点の状況とのギャップ

4) ギャップを埋めるために誰が何を行ったら良いか？

- ① ○○議員が具体的にすべきこと（次の（2015年）地方議会選挙までにすべきことを3点）

- ・ ICT活用につき先進事例などを用いて年配の議員や行政担当者にわかりやすく伝える
- ② あなたがサポーターとして具体的にできること（あなたの「強み」を活かす）
 - ・ ICT活用の先進事例について鈴木氏にお伝えする

3-3. 清家氏グループ

1) ○○議員にとっての「○○政策」の実現における地方議会のあるべき姿

- ・ 議会が団結して行動する（与党、野党は知らない）。議会内政治が無駄、弊害多い
- ・ 定数削減、議員報酬の増加。スタッフを雇う必要あり
- ・ 議会の公開。有権者に興味を持ってもらう、プレッシャーになってもらう
- ・ 議員同士の議論が必要

2) ○○議会の現時点の状況（○○議員の議会活動の課題）

- ・ 与野党の関係ギクシャク。議会で議論が行われていない。議員と執行部のやり取りだけ
- ・ 若手地方議員の勉強会は活発に行われている
- ・ 役所の負担大きい。議員も多くの仕事ができない。議論も活発化しない
- ・ 待機児童対策について800人の請願を提出しても動かない
- ・ 区政は報道されづらい。ブログ等を見るのも一部の人

3) あるべき姿と現時点の状況とのギャップ

(なし)

4) ギャップを埋めるために誰が何を行ったら良いか？

- ① ○○議員が具体的にすべきこと（次の（2015年）地方議会選挙までにすべきことを3点）
 - ・ 議会における論点の情報発信
- ② あなたがサポーターとして具体的にできること（あなたの「強み」を活かす）
 - ・ 市民オンブズマンによる評価。がんばっている議員をちゃんと評価する仕組み
 - ・ がんばっている議員を支援するための政策シンクタンクの立上げ

4. まとめ

地方議員が実現を目指す政策や地方議会における一般質問の実態について比較検討し、共通点と差異点に気付くことができたと考えます。

このことは、地方議員と地方議会の仕事の見える化につながると考えます。

以上